

2020年度 事業報告書

学校法人 白梅学園

目 次

[Ⅰ]2020 年度理事長報告	1
[Ⅱ]2020 年度各部門主要事業の報告（及び重点取組報告）	2
1. 学園・法人事務局.....	2
2. 白梅学園大学・短期大学.....	3
3. 白梅学園高等学校.....	4
4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部.....	5
5. 白梅幼稚園	6
[Ⅲ]学校法人の概要	8
1. 基本情報	8
2. 学校法人の沿革	9
3. 入学定員・学生・生徒・園児数.....	10
4. 収容定員充足率	10
5. 組織図	11
[Ⅳ]2020 年度の主要な事業報告	12
1. 教育活動の推進	12
2. 研究活動の推進	14
3. 学生・生徒・園児支援の推進.....	15
4. 学生・生徒・園児の確保.....	17
5. 学園広報の推進	18
6. 国際交流の推進	19
7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進.....	19
8. 卒業生との連携等の推進.....	20
9. 働き方・仕事の仕方の見直し.....	21
10. 建学の精神の高揚.....	23
11. 令和充実5ヵ年年計画・80周年記念事業	23
12. 大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画.....	24
13. 財政再建計画	24
14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底.....	25
15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）	26
16. 情報化教育/ICT	27
17. 新型コロナウイルス感染症に関する取組.....	28

[V]財務の概要	31
1. 決算の概要	31
2. 収支状況	31
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策.....	34
4. 財務状況の推移等.....	36
 [VI]データ集	 41
1. 役員の概要	41
2. 評議員の概要	43
3. 2020 年度理事会・評議員会の開催状況	44
4. 教職員の概要（専任教職員数）	45
5. 2020 年度進路状況	46

[I]2020年度理事長報告

2020 年度における事業は、新型コロナウイルス感染症に振り回された感がある。学校法人として統一ある対策を実施するため、「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、2020 年度中に 21 回の対策会議を行い、各部門の PCR 検査実施状況やオンライン授業実施計画などの共有や、学生等に対する注意喚起文の内容などを含めた対応策を決定・実施した。各学校の授業は、オンライン授業等を駆使して結果的には何とか遂行することができた。

昨年度から、2022 年 3 月 3 日に迎える「白梅学園創立 80 周年」に向けた「白梅学園令和充実 5 カ年計画」がスタートしたが、まさにコロナに出鼻をくじかれた形である。緊急事態宣言の発出を踏まえ、兎にも角にも入構規制、在宅勤務等を実施し、「クラスター」の発生防止に万全を尽くした。学生・生徒に PCR 検査陽性者は多少発生したが、すべて短期間で回復し、大事に至らなかった。園児の陽性者は無く、また学生・生徒・園児の家族の陽性者も少数でとどまったことは幸いであった。また、教員・職員においては、本人の PCR 陽性者は発生しなかったこと、教員の遠隔授業への取り組み努力、職員のコア業務の洗いだし・在宅勤務への取り組み等によって、2020 年度の事業を何とか円滑に遂行できた。

教育・研究・社会貢献を使命とする我々にとっては、何よりも「学び」を確保することが大切である。実際に教室に来て対面授業を受けることが大きく制約を受ける中、オンライン等の遠隔授業を実施するため、学園はすべての学生・生徒に対してオンライン授業受講環境整備費として一人 3 万円の補助を行った。総経費は約 6400 万円であった。大学・短期大学では、困窮する学生を支援するために、寄付金を原資として「自立支援給付奨学金」を設立し、延べ 133 名の学生に対して一人 10 万円の奨学金を支給した（教職員有志、大学・短期大学同窓会、大学・短期大学後援会より総額 1570 万円のご寄付をいただき、1330 万円を支給）。

このほか、2021 年度に向けて新型コロナウイルス感染症対策を行いながら対面での学びを継続するための大学・短期大学の大規模教室整備や、オンラインとのハイブリッド授業に対応した講義室 AV 機器改修等を実施し、総額約 6000 万円の支出となった。

そのような厳しい財政状況の中にありながら、昨年度に決定した「財政再建・新棟建設計画」に基づき、2020 年度は新棟建設のための資金 1 億 2300 万円を「減価償却引当特定資産」として確保した。

一方で、施策の優先度を再考し、建物の保全計画や証明書発行機の導入などを次年度以降に見送ったことにより、資金収支では約 1800 万円の支出削減を行った。また、コロナ禍のために計画通りの事業活動ができず、経費（消耗品費、光熱水費、旅費交通費、印刷製本費、謝礼費、広報費など）の一部を使わなかったことと、各部門の節減努力等によって約 8900 万円の支出削減を行った。2020 年度の決算は、教職員の努力もあって収入超過になり、これは次年度に繋ぐ大きな布石になった。

その他、創立 80 周年記念事業の実施に関しては、大幅な変更を余儀なくされた。コロナ禍がいつ終息するかわからない中で、多人数が集まる行事式典の実実施計画を進めることはできない。そこで 2 月 22 日の理事会において、「創立 80 周年記念日である 2022 年 3 月 3 日には式典を行わず、役員等が創立者二人（穂積重遠、小松謙助）の墓参りを実施」「創立 80 周年記念式典は、大学・短大新棟建設に着工する際の式典（地鎮祭）に合わせて、2025 年に行う」こと等を決定した。

新型コロナウイルス感染症の蔓延に負けず、伝統ある白梅学園の足腰を強くし、さらなる充実・発展を期す覚悟を新たにした年度であった。

（理事長 井原 徹）

[Ⅱ]2020年度各部門主要事業の報告（及び重点取組報告）

1. 学園・法人事務局

学園・法人としては、2020年度は「新型コロナウイルス感染症への対応」を緊急かつ最重要課題として、教職員全員で取り組みました。

理事長を対策本部長として、全学の部門代表からなる「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げ、各学校のPCR検査状況等を対策会議にて適宜共有し、諸課題への対策を検討しました。

その他、新型コロナウイルス感染症への対応として以下を実施しました。

- (1) 学園内からのクラスター発生予防の徹底。
- (2) 学生／生徒の学修機会の極力確保（オンライン授業他）。
- (3) 学生／生徒へのオンライン授業受講環境整備費を助成（6400万円）。
- (4) 困窮学生への基金創設（教職員有志、大学／短期大学同窓会、大学／短期大学後援会等からのご寄付1570万円のうち1330万円を給付済）。
- (5) 大学／短期大学にて、2021年度から三密回避しながら対面授業を実施するため、教室の改修及びAV機器の整備（6000万円）を緊急実施。

「新型コロナウイルス感染症への対応」を優先したことにより、重要度と緊急度にて2020年度の事業計画として実施予定だった施策の優先順位を見直し、以下の通り一部の施策を、2021年度以降に施策を見送った。

【予定通り進捗した主な施策】

- ・学園の中等教育（中学／高校）及び幼児教育のあり方検討（幼稚園／大学短大）
- ・大学／短期大学事務組織、法人事務組織の見直し
- ・施設改修及び更新（一部、2021年度以降に見送り）
- ・講義室等AV設備整備[大学・短期大学]（一部計画の前倒し）
- ・学園の今後のオンライン教育のあり方並びに情報化教育投資の検討
- ・学園広報の推進（一部、2021年度以降に見送り）
- ・大学／短期大学新棟建築に向けた将来構想策定委員会及び建築委員会の設置

【2021年度以降に見送った主な施策】

- ・裁量労働制／変形労働時間制及び在宅勤務のあり方の検討
- ・80周年記念事業にむけた検討委員会の設置
- ・ガバナンス関連
- ・施設の中長期整備計画の検討・具体化

（法人事務局長 大林 泉）

2. 白梅学園大学・短期大学

(1) 教育活動の推進

教育の質保証の確立をめざすために、「教学マネジメント・IR委員会」を発足させ、入学者選抜方法の妥当性、学修行動調査、卒業時アンケートの結果について共有、結果概要を取りまとめた。エビデンスに基づき教育の質向上につなげる組織体制としての前進となったといえる。

将来構想についての議論を継続・発展させ、「白梅学園大学・白梅学園短期大学将来ビジョン」の原案（2021年版）としてまとめたことにより、理念的展望の整理となった。

学修者の主体性を引き出す授業を可能にする教室環境整備については、コロナ禍対策もあり什器も含めて充実し、物理的課題解決に向けて期待以上の成果を実現した。コロナ対応により、計画の未実施項目は避けられなかった一方で、学修支援体制が最優先され、学生の学修環境サポートがWi-Fiルーターやノートパソコンの貸し出しをはじめ種々実施された。

また、教職員、学生それぞれが最大限努力した結果、オンライン授業実施を全面的に展開することが可能となった。複数回の振り返りアンケートの実施と結果の共有、改善は好循環となり、今後の経験値としても貴重な成果となった。

(2) 研究活動の推進

研究助成の成果発表会をオンライン実施するなど、制限の中での努力はみられたが、個々の研究計画の実現は不可能を強いられたものも多く、進捗は不十分なものとならざるを得なかった。一方で、2020年度申請の科研費は4件採択され、外部資金調達の貢献につながった。重点施策である「子ども学アーカイブス」については、SA（スチューデントアシスタント）を活用した作業を進め、緊急事態宣言の合間をぬっての資料整理も継続し、2021年度に向けての発信準備を行った。

(3) 学生支援の推進

採用試験の日程変更等が多い中で、例年同様の就職率を維持し、公務員採用も例年並み、教員採用は例年以上の成果を修めた。

コロナ禍における学生支援としては、複数回のアンケートにより現状を把握し、学園からの補助金の他、卒業生や教職員からの寄付金を原資とした自立支援給付奨学金、フードパントリー（食料・生活物資の支援）の定期的開催などを行った。大学への入構が制限される中、1年生に向けては各学科とも創意工夫をしながら交流、サポートの機会を多様に設けるとともに、全学的な教育活動の様子をホームページの活用により紹介した。

合理的配慮が必要な学生支援のための委員会規程を備え、組織的支援の運用につなげた。

(4) 学生募集

市井の感染状況に応じてオンラインや来校型のオープンキャンパスを実施し、受験生向けにWeb上のプラットフォームを整備した。また、「総合型選抜入試」を全学実施し、入学定員（学部・短大）320名に対し、334名の入学者を確保した。

（白梅学園大学・短期大学 学長 高田文子）

3. 白梅学園高等学校

(1) 教育活動の推進・研究活動の推進

ICT環境が各教室に整ったことと、1年生より全員にiPadの貸与を開始したことにより、より効果的な授業が実践できるようになりました。また、黒板型授業では困難であった双方向授業が実践できるようになりました。また校内研修を全員参加と任意参加を合わせると合計7回実施できました。それにより、その内容を活かした教育活動が実践できるようになりました。

(2) 生徒支援の推進

高大連携プログラムは新型コロナウイルス感染症対策のため実施できませんでしたが、22世紀SFP（しらうめフロンティアプロジェクト、学年にかかわらず希望者で行う探求学習）はZOOMを用いて実施できました。それにより参加した生徒は大きな学びを得ることができました。

(3) 生徒の確保

新型コロナウイルスの影響で例年のような募集活動ができない中、できるだけきめ細かい説明会や学校見学会を心掛け、定員を越える新入生を迎えることができました。

(4) 国際交流の推進

新型コロナウイルス感染症の影響で、全ての国際交流プログラムは中止を余儀なくされました。

(5) 働き方・仕事の仕方の見直し

大きな進展はありませんでした。仕事を整理する必要はあるものの、教育内容の質を全く落とさずに教員の仕事を軽減するのには、ある程度時間がかかるものと思われます。今後も引き続き、教員の仕事内容の整理に取り組んでまいります。

(6) 建学の精神の高揚

3ポリシーを教育内容に入れることは、教育課程や行事計画などの変更も伴うため、今年度の教育内容が直接大きく変わることはありませんでした。3ポリシーに書かれていくことの具現化については、来年度の新教育課程策定とともに実行していきます。

（白梅学園高等学校 校長 武内 彰）

4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

2020年度は、清修の経営・財政の安定化に向けて、清修経営検討委員会を開催し、清修の現状と評価、6年間一貫教育の意義、白梅学園高等学校との連携・協働の具体策などについて検討を行いました。その中で募集活動の強化とともに、教育の充実をより一層図り、魅力ある教育活動を展開していく重要性が指摘されました。

特に、本校の最重要課題である財政の健全化に向けて、11年ぶりに45名の入学者を確保できました。広く知名度を上げるためにマスコミ等への情報提供、全教員による塾訪問の徹底など広報活動に重点を置き、さらに特色ある教育活動（下記3項目）の内容と成果を生徒の姿から伝える学校説明会を企画してきたことによるものと総括しています。

(1) 英語教育の充実

本校の英語科の特色であるネイティブ教員によるAll Englishの授業で、英語4技能5領域の「聞く・話す（コミュニケーションとプレゼンテーション）」に重点を置いた「英語を使う、使える環境」を整えてまいりました。その中で、生徒が意欲的に取り組む姿勢を検証することができました。（2020, 11 各教科の授業の満足度調査）

また、2019年度と比較して高い英語検定取得率を達成することができ、2020年度末段階では、中学3年生で準2級以上71%、高校1年生で2級以上27%、全学年で新たに準1級4人、1級に1名が合格しました。

しかし、新型コロナ禍で中学2年の国内英語研修、高校1年の海外研修を実施することができず、身に付けた英語のスキルを現地で実際に試すことができませんでした。

(2) 少人数女子教育の推進

ジェンダーに関わるアンコンシャス・バイアス（無意識の中の偏見）にとらわれることなく、自らの考えをもって主体的に行動できる女性の育成を目指してまいりました。そのために2020年度の達成目標として「リーダーシップ研修」を通して、生徒のよさや可能性を発揮させる取り組みを行ってきました。生徒がリーダーシップを発揮する主要な学校行事が中止や延期される中で、学校説明会の運営には生徒会が一体となって取り組みました。そこでは異学年交流を通して、お手本となる先輩の姿に「あの人のようになりたい」というロールモデルを意識して、その影響を受けながら活動できました。

(3) ICT活用の推進

新型コロナ感染防止による学校の休業期間の早期から（4月中旬から）双方向のオンライン授業を実施しました。そのため、教員はオンライン授業の手段や効果的な方法を研究しながら、授業に臨んでいきました。新1年生から1日の学習の成果をメールで報告するために文字入力を行い、メールの操作も少しずつ習得できました。

また、4月中旬と6月上旬にオンライン授業の実践を紹介する研修会をもち、学年や教科を超えて、共通で実践できる手法を共有できたことが、当初想定できなかった成果です。

（白梅学園清修中学校・中高一貫部 校長 山田 裕）

5. 白梅幼稚園

子どもたちが日々の園生活の中で、主体的に取り組む『遊び』を大切にしたい保育を展開した。この主体的な遊びには多くの学びがあり、その学びを実現し、園児数増加につなげるため、2020年度は、以下の課題に取り組んだ。

(1) 主体的な遊びを中心とした保育・園庭改修についての研究の推進

月1回の園内研究会で子どもの成長や保育環境のあり方について検討を進めるとともに、園庭プロジェクトの充実を図り、教員自ら園庭の小屋の補修と図書室の整備を行った。また、大学・短大との幼児教育懇談会を定期的に開催し、本園の保育の理解を大学と幼稚園双方で深めるとともに、保育への助言と示唆を得た。総じて、主体的な遊びを中心とした保育を充実させ、保育・園庭改修についての研究を推進することができた。

公開保育については、コロナ禍のため実施することができなかった。また、研究成果については、一部の発信に留まった。いずれも2021年度の課題となるだろう。

(2) 大学・短大との連携の強化、幼児教育懇談会の実施

大学・短大との幼児教育懇談会について、月1回程度継続的に開催し、本園の保育の理解を深め合うとともに、保育への助言と示唆を得た。但し、保育実践に関する共有の段階に留まり、大学附属幼稚園としてのあり方などについては、十分な検討に至らなかった。この点は、懇談会の位置づけと機能の明確化を図った上で、取り組む必要があるだろう。

(3) 2歳児クラスの拡大と内容の充実

2歳児にクラスについては、週2日のプログラムを導入したことで、内容が充実し、安定した参加が可能となった。一方で、曜日の固定により他園との併用を妨げた可能性がある。今後は、柔軟な利用を可能とするスケジュールを編制することが課題である。

2歳児クラスを利用した保護者には、白梅幼稚園の特徴や保育のよさについて理解を深めていただき、入園児募集への応募につながった。

(4) 白梅幼稚園の広報活動の充実

コンサルタントの助言をもとに、幼稚園紹介のパンフレットを全面的に更新した。また、入園説明会のチラシを地域や関係機関の範囲を広げて配付した。入園説明会の回数を増やし、説明会の内容についても工夫を行った。ホームページは随時、更新し、幼稚園の保育や事業、募集について、情報を適時に発信した。

その他、幼稚園開園70周年にあたり、白梅幼稚園の沿革・歴史と成果を取りまとめた70周年記念誌を刊行した。また、「サクラメッセージ」を利用し、保護者への諸連絡を適時に行うとともに、園での活動の様子を広報した。

総じて、2019年度より広報活動は改善され、充実した。教職員の広報観についても改善と共有が進んだ。募集については、尽力したものの残念ながら目標には到達しなかった。2021年度に向けて募集関連の振りかえりを行い、園児数の増加に向け年度当初より取り組みを開始する。広報については、既存の媒体の見直しや媒体の多角化など、さらなる充実を図りたい。

(5) 預かり保育の内容の充実

コロナ禍においても預かり保育には社会的使命があり、中止することなく実施した。子どもたちの安全と衛生に配慮して、高い利用ニーズに応えた。例えば、子どもの年齢や生活に応じて二部屋に分けるなど保育室の使い方や保育者の配置について、工夫を施した。

預かり保育での過ごし方として、家庭に準じた休息と子どもの意欲に応じた遊びや活動の提供に努めた。コロナ禍においては安全と衛生が優先され、内容や活動の改善は小幅にとどまり、2021年度以降の継続課題となった。

(白梅幼稚園 園長 本山方子)

[Ⅲ]学校法人の概要

1. 基本情報

(1)法人の名称

学校法人白梅学園(大臣認可年月日 昭和28年12月15日)

(2)主たる事務所の住所

〒187-8570 東京都小平市小川町1丁目830番地

(3)設置する学校・学部・学科

①白梅学園大学

大学院 子ども学研究科

子ども学部 子ども学科

発達臨床学科

家族・地域支援学科

②白梅学園短期大学

保育科

③白梅学園高等学校

④白梅学園清修中学校

⑤白梅幼稚園

2. 学校法人の沿革

1942(昭和17)年3月	東京家庭学園設立
1950(昭和25)年3月	白梅幼稚園設置
1953(昭和28)年4月	白梅保母学園を創立、厚生省より保母養成機関の指定
12月	学校法人白梅学園設置
1957(昭和32)年4月	白梅学園短期大学設置 保育科第1部、同第2部開設
1961(昭和36)年4月	心理技術科第1部、同第2部開設(平成元年 心理学科と科名変更) 専攻科保育専攻設置 第1部、第2部開設
1963(昭和39)年4月	白梅学園高等学校設置
1966(昭和41)年4月	短期大学教養科開設
1987(昭和62)年4月	保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部募集停止 専攻科保育専攻第1部開設
1989(平成元)年4月	専攻科福祉専攻(介護福祉士養成施設)開設
1992(平成4)年4月	専攻科福祉専攻、学位授与の認定
1993(平成5)年4月	専攻科保育専攻、学位授与の認定 保育科第2部、心理技術科第2部、専攻科保育専攻第2部の廃止 保育科第1部を保育科、心理学科第1部を心理学科、 専攻科保育専攻第1部を専攻科保育専攻と名称変更
1998(平成10)年3月	専攻科保育専攻1年課程廃止
4月	専攻科保育専攻2年課程開設 福祉援助学科(介護福祉士養成施設)開設
2005(平成17)年4月	白梅学園大学子ども学部子ども学科設置 短期大学教養科募集停止 専攻科保育専攻募集停止
2006(平成18)年3月	短期大学教養科廃止、専攻科保育専攻廃止
4月	白梅学園清修中学校設置
2008(平成20)年4月	白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻修士課程設置
2009(平成21)年3月	専攻科福祉専攻廃止
4月	白梅学園大学子ども学部発達臨床学科開設 短期大学心理学科募集停止
2010(平成22)年4月	白梅学園大学子ども学部家族・地域支援学科開設 白梅学園大学大学院子ども学研究科子ども学専攻博士課程開設 白梅学園大学附属幼稚園地域交流研究センター開設 白梅学園短期大学福祉援助学科募集停止
2011(平成23)年3月	白梅学園短期大学心理学科廃止
2012(平成24)年3月	白梅学園短期大学福祉援助学科廃止
2014(平成26)年3月	若葉寮閉寮

3. 入学定員・学生・生徒・園児数

(2020 年 5 月 1 日)

白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名		入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
子ども学研究科	修士課程	15	30	4	17		21
子ども学専攻	博士課程	7	21	0	3	9	12
合 計		22	51	4	20	9	33

白梅学園大学

子ども学部	学科名	入学定員	編入学 定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	4 年	計
	子ども学科	135	10	560	147	155	151	148	601
	発達臨床学科	50	10	220	53	62	64	53	232
	家族・地域支援学科	40	10	180	42	32	26	44	144
合 計		225	30	960	242	249	241	245	977

白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	収容定員	1 年	2 年	計
保育科	95	190	102	95	197
合 計	95	190	102	95	197

白梅学園高等学校

	入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
全日制課程普通科 (含 清修中高一貫部)	340	1,020	268	300	244	812
合 計	340	1,020	304	248	238	790

白梅学園清修中学校

	入学定員	収容定員	1 年	2 年	3 年	計
白梅学園清修中学校	60	180	22	21	23	66
合 計	60	180	22	21	23	66

白梅幼稚園

	入学定員	収容定員	3 歳	4 歳	5 歳	計
白梅幼稚園	70	210	46	59	59	164
合 計	70	210	46	59	59	164

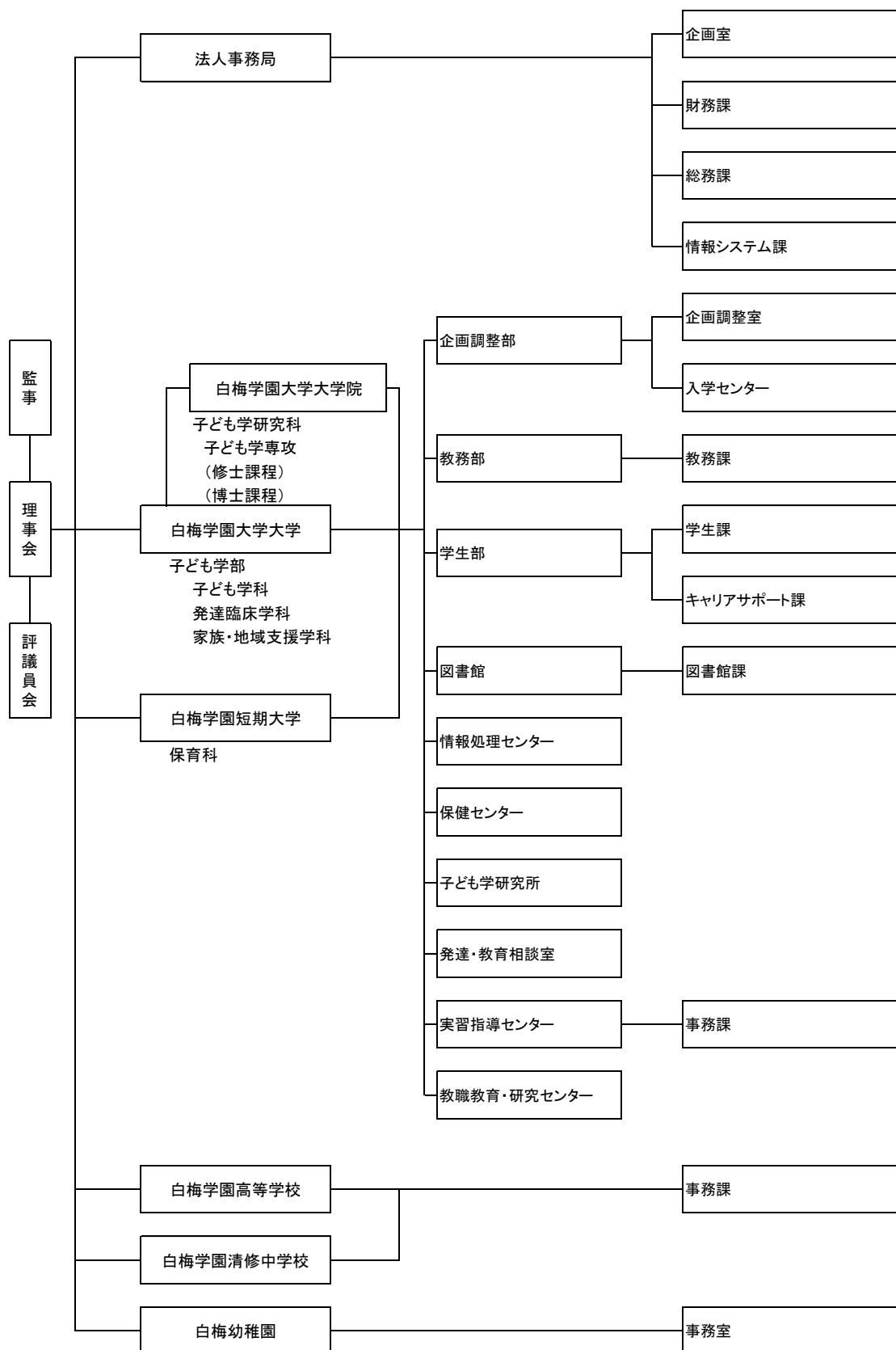
4. 収容定員充足率

(毎年度 5 月 1 日現在)

学校名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
白梅学園大学大学院	94%	88%	78%	82%	65%
白梅学園大学	107%	105%	105%	105%	102%
白梅学園短期大学	108%	106%	104%	102%	104%
白梅学園高等学校	89%	84%	77%	77%	77%
白梅学園清修中学校	46%	53%	46%	37%	37%
白梅幼稚園	78%	80%	80%	83%	78%

5. 組織図

(2020年4月1日)



[IV]2020年度の主要な事業報告

1. 教育活動の推進

【学園・法人】

(1)学園の中等教育のあり方検討（中学・高校）

①教育面

白梅学園高等学校、清修中学校両校の代表により「白梅学園の中等教育検討委員会」を月に1回のペースで開催し、両校の教育の特徴及び強みについて論議した。3月、理事会に対し、白梅学園としての中等教育のあり方として主に「グローバル教育」「ICT教育」「22世紀 SFP（しらうめフロンティアプロジェクト）」の観点で両校の教育内容を共有することが望まれるとの答申を行った。

②経営面

清修経営検討委員会を清修、高校、法人事務局にて2020年11月より毎週金曜に開催し、清修の現状と評価、6年一貫教育である清修の良さ、清修の今後のあり方について検討した。

2021年3月の高校／清修の教員会にて、検討状況を報告し教員からの意見を聴取した。

2021年3月の理事会にて中間報告を行った。

③2021年度に向けて

2021年4月より、次期高校校長にも検討に加わっていただき、教育面／経営面2つの視点からの理事会報告及び教職員の意見、2021年度の清修入学者が45名となったことなどを踏まえ、清修のあり方について「白梅学園の中等教育をより良くしていく」ために、「清修経営検討委員会」を「清修検討委員会」と改称し、経営面／教育面を総合的に検討する予定である。

(2)学園の幼児教育のあり方検討（幼稚園／大学・短期大学）

8月より月1回のペースで幼児教育懇談会を開催した。

「白梅幼稚園の保育を語る・知る・確認する」をテーマに日常の保育や行事について課題や悩んでいることを中心に活発に議論した。

2021年度は「大学・短期大学と幼稚園の関係性」「園児募集」「教育研究」の観点から継続的に論議する。また、次期園長と連携して懇談会のあり方を見直す予定である。

【白梅学園大学・短期大学】

大学子ども学部（子ども学科、発達臨床学科、家族・地域支援学科）、大学院（子ども学研究科）、短期大学保育科は2021年度の学園創立80周年に向け、「保育学・子ども学の白梅」への発展充実を目指し、教育・研究のレベルアップ、地域貢献を実施するため、以下の事業を遂行した。

(1)教育の質向上・内部質保証の確立

「教育の質向上・内部質保証の確立」へと発展させ進めていくために下記を行った。

①「白梅学園大学・白梅学園短期大学 教学マネジメント・IR委員会」を発足させ、計4回（8/6, 9/24, 10/29, 2/18）の委員会を開催した。2020年度の委員会では、入学者選抜方法の妥当性、学修行動調査、卒業時アンケートの結果について共有し、結果概要を取りまとめた。

②卒業認定の方針（ディプロマポリシー）と相関する授業を実施するため、相関関係を示したカリキュラムマトリクスを参照した上で、授業シラバスを作成するよう依頼した。

(2) 将来構想における各学科の特徴の明確化及び定員のあり方の検討

将来の白梅のビジョン、コンセプトを明確化し、学部・学科、教育・研究の柱など議論を継続・発展させ、「白梅学園大学・白梅学園短期大学 将来ビジョン」の原案を2021版として取りまとめた。

(3) 新任教職員への研修の充実

コロナ禍であったが、年度初めにFD、SD委員会合同での教職員入職時ガイダンス・研修を対面で実施した。また、7月には新任教職員と学長との懇談会を行った。

(4) 学修者の主体性を引き出す授業を可能とする環境整備（教室の設備整備）

F棟4階一部講義室を可動式の机椅子にした。さらに、コロナ禍での対面授業実施に向けての整備の一環として、机椅子の入替を追加して実施し、アクティブラーニング型の授業実施増加につなげる環境を整えた。

(5) 図書館における、学修支援体制の充実化・館内環境整備の充実

コロナ禍により、入構が制限されたため、郵送貸出・郵送文献複写・オンラインを中心としたサービス提供となった。その中で、後期授業期間中は、一部、ゼミナール・授業・カリキュラムとの連携を図り、利用指導を8回行った。また、外部アクセスによるオンラインでのデータベース利用を拡大・延長し、サービスの充実を図った。

(6) 情報処理センターにおける、学修支援体制・環境の充実化

コロナ対応により、学生に向けてWi-Fiルーターの貸出、ノートパソコンの自宅貸出、スキル相談を実施した。一方で、2020年度後期に予定していた学生証のICカード化は実施できなかった。

(7) 白梅学園大学・短大オンライン教育の積極的展開を進める。

奇しくもコロナ対応により、オンラインによる授業実施を全面的に行った。前期終了後、FD委員会では学生対象アンケートだけではなく、教員に対してもオンライン授業の振り返りアンケートを実施し、その結果をFD研修会において共有し、後期の授業改善につなげた。なお、アンケートは後期授業終了後も実施した。

また、オンライン授業検討のためのプロジェクトチームにおいて、中長期的なオンライン授業の取り入れ方の検討をし、大学として学生に求めるパソコンおよびネットワーク環境について、ガイドラインを定めた。将来構想策定委員会との意見のすり合わせは2021年度の取り組み課題としている。

【白梅学園高等学校】

全教室にICT環境が整備され、教員は電子教科書、パソコンで作成した教材、インターネットなどを駆使し、黒板時代よりも中身を充実させた授業を展開した。また、クラッシー、メタモジ等を、家庭学習や朝学習（朝のHR前の自主学習）の補助ツールとして使用している。その結果、生徒の学習の幅が教科書中心のものから、課題や演習等を含めたものに広がりつつある。

さらに第1学年は、iPadを学校から貸与し、平時の授業や家庭学習において、ほとんどの教科において活用している。その結果、教員と生徒との双方向の授業も取り入れることが可能となり、アクティブラーニングの実践に役立っている。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 英語教育の充実

ネイティブ教員を中心に、放課後もミッションカード（質問カード）を使ってコミュニケーションの場をもったり、異学年が交流する英語の行事を設定したりして、交流の機会をもった。中学1年生に各教科の授業の満足度をアンケートで調査したところ、10科目中英語が第一位（21.3%）だった。（2020/11/7アンケート「楽しかった授業、好きな科目」）全国平均では英語は10科目中最下位。（2015 ベネッセ）

(2) 少人数女子教育の推進

本校の創設時の教育理念である「気品とフロンティア精神を兼ね備えた女性を育てる」について、これからの時代を生きる生徒たちに求められる「気品」と「フロンティア精神」について、あらためて教員に問いかけ、全教職員の共通の認識をもって、清修の教育の3ポリシーを設定した。

(3) ICT活用の推進

オンライン授業を行う中で、高校生はWordやPowerPointを使って課題を作成したり、中学生はZOOMやメールを使った双方向の授業に参加したりして、ICTのスキルを高める機会となった。

2021年度からGIGAスクール構想による中学生一人一台のタブレット端末貸与の準備のため、ICTの活用の研修会を2回もって、タブレット端末を使った授業の可能性を探った。

【白梅幼稚園】

(1) 大学との連携の強化（白梅学園における幼児教育検討懇談会）

幼児教育懇談会が継続して実施され、本園の保育の理解を大学と幼稚園双方で深めるとともに、保育への助言と示唆を得た。この点で、懇談会設置の効果はあった。

(2) 預かり保育の充実

コロナ禍において、子どもたちの安全と衛生に配慮して継続して実施し、高い利用ニーズに十分に応えた。また、人員面なども予定通りに運営した。期待以上に達成した。

2. 研究活動の推進

【白梅学園大学・短期大学】

「子ども学研究所」の事業（研究調査・地域連携・成果発信）の基盤整備の定着化と充実を行い、子ども・人間に視野を大きく広げ、子ども学研究を深化させるため、以下の事業を遂行した。

(1) 子ども学研究所を中心とした「子ども学研究」の拠点づくり研究の高度化推進

研究助成の成果発表会を2020年6月25日にオンラインで実施し、双方向での研究討議も活発に行われた。

2020年7月に研究倫理教育、2021年1月にコンプライアンス教育を実施した。毎年の実施が定着したといえる。

(2) 「子ども学アーカイブス」（仮称）を中心とした知の集積拠点としての研究データベースの構築

2019年度に寄贈された、古田足日氏の資料（本）の寄贈冊数確認・研究対象本との仕分け作業整理を行った。冊数確認・仕分け作業整理にあたってはスチューデント・アシスタント（SA）を活用して進めた。また2021年3月16日より東京のちひろ美術館で開催された「没後1年 田畑精一『おいしいのぼうけん』展」（会期：2021年6月13日まで）に、本学の「白梅学園大学・白梅学園

短期大学 子ども学研究所 古田足日研究プロジェクトチーム」が資料提供等で協力を行った。

小松前理事長の寄贈本の冊数・金額確認、登録準備は概ね終了し、資産登録を行う準備を整えた。

(3) 研究活性支援（研究助成含む）及び研究費獲得のための支援充実

2020年度に申請した科研費は、新規に4件採択された。採択率の向上が見られたものの、母数となる応募件数が伸びていないためでもある。科研費以外の研究助成申請も見られるようになったが、研究活動の活性化は不十分な部分もあった。

【白梅学園高等学校】

主にICT関連や生徒指導関連の外部講師研修会（全員参加）を年度中に3回、また教員同士の研修会（有志参加）も年度中に4回行った。その結果、今まで気が付かなかったことに気づいたり、新しい課題を発見して解決に向けて取り組んだりすることができた。それをさらに次の研究活動につなげていきたいと考える。

ただし、授業研究においては、4月～5月が臨時休業であったことや、その後も分散登校、短縮授業が続いたことから、十分にゆとりをもって他の教員の授業を視察しての授業研究はほとんどできなかった。2021年度授業が正常化すれば、授業研究を積極的に取り入れていく。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

新しい学習指導要領の指導観・評価観に基づく研修を進めてきた。特に、2020年度は2021年度施行の中学校学習指導要領改訂による評価方法の準備の年として、通知表の観点別評価規準の改訂に取り組んだ。

それと同時に、各教科で育てたい生徒の姿を明確にして、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーと関連させ、教育方針を構造化した。

【白梅幼稚園】

(1) 主体的な遊びを中心とした保育の充実

園内研究会や園庭プロジェクトの充実を図り、幼児教育懇談会などから示唆を受け、主体的な遊びを中心とした保育を充実させることができ、期待通りの成果を達成した。

(2) 公開保育の実施

公開保育については、コロナ禍のため、実施することができなかった。コロナ禍の状況が改善すれば、来年度は実施したい。

(3) 園庭改修の継続

園庭改修については、教員が協力し合い、園庭の小屋の補修と図書室の整備を行った。保育で十分に活用するに至り、期待通りの成果を達成した。

3. 学生・生徒・園児支援の推進

【白梅学園大学・短期大学】

(1) キャリアガイダンスの充実

コロナ禍により、キャリア啓発のためのプログラムの実施に制限がある中で、卒業年次生以外にはWEBも活用しながら、必要な講座等を実施した。

また、卒業年次生は採用試験の日程変更等が多々ある中、精力的に活動し、例年と同様の就職率を維持した。

(2) 公務員、教職採用試験サポートの充実

希望進路先に合わせた試験対策を実施し、公務員採用等は例年並み、教員採用は例年以上の採用者数となった。

(3) 修学支援新制度の周知徹底

2020年4月、緊急事態宣言中であったため、周知、手続きがWEB・郵送となったが、おおよそ行えた。

(4) コロナ禍における学生の支援

学園から一律に支給した遠隔授業環境整備補助金とは別に、寄付金を原資とした自立支援給付奨学金、フードパントリー（食料・生活物資の支援）を行った。

また、授業受講に必要な教科書を生協が郵送販売するにあたり、梱包・配送費、代引き手数料を大学・短期大学で負担した。

合理的な配慮が必要な学生の支援のための委員会規程を備え、組織的な支援を行うため、学生と大学側の合意形成書を取りかわした。

【白梅学園高等学校】

高大連携プログラムにおいては、計画を進めてはいたものの、新型コロナウイルス感染症拡大のため、クラス単位以上の生徒を1か所に集めることを制限したため、具体的な実施へとは至らなかった。新型コロナウイルス感染症が収まり、従来の学校行事等を正常に行うことが可能になったら、各大学の関係する方々との連絡を開始し、実施につなげたいと考えている。

22世紀白梅SFP（しらうめフロンティアプロジェクト）も予定していた活動は制限を受けたが、西川講座やSDGsなどの活動は、ZOOM等を利用して、できる範囲で実施することができ、参加した生徒の学びにつながった。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 学力の的確な評価

生徒の学力の実態を把握し適切な支援を行うために、経年変化がわかる学力推移調査（学力テスト）を実施した。学習・進路指導部を中心に、その結果を分析し、全教員でその内容を共有した。

(2) 生徒の個別的な支援

学習指導上で個別の配慮を必要とする生徒について、校内委員会が中心となって支援する体制が機能し始めた。

【白梅幼稚園】

(1) 特別に支援を要する子どもの育ちの保証（巡回相談や相談機能の活用）

発達・教育相談室の協力により、支援を必要とする園児への適切な支援を十分に行うことができ、子どもの育ちの保証を達成した。

4. 学生・生徒・園児の確保

【白梅学園大学・短期大学】

2021年度新入試制度対象者へ入試情報や本学新奨学金制度（特待生奨学金、給付奨学金）などの最新情報を適時案内し、より本学での学び、学生生活の魅力を感じてもらえるよう、以下の事業を遂行した。

(1) 学生募集イベントの実施

コロナ禍により、2020年3月のオープンキャンパスは中止せざるを得なかったが、6月からは、オンラインオープンキャンパスを実施、8月には現地開催（来校型）のオープンキャンパスを実施した。

高校教員対象説明会は、オンライン（オンデマンド型）で実施した。

(2) 定員充足に向けた学生募集活動

コロナ禍により、多くの外部説明会が中止となる中、個別の高校訪問等でカバーし、入学定員（学部・短大）320名に対し、334名の入学者を確保した。

(3) 中長期の18歳人口動向を見据えた学生募集広報

前年度、家族・地域支援学科と短大保育科に導入したAO入試を、文部科学省通知等に対応し「総合型選抜入試」として、全学で実施した。各学科の方針に基づく選考方法により、選抜試験を行った。

(4) 大学案内、受験生サイトの制作

コロナ禍により、オープンキャンパスへの来校者を制限せざるを得なかったため、受験生サイトでの事前予約受付や、動画配信に対応できるようWeb上のプラットフォームを整備した。

(5) 大学院募集対策

大学院教育の付加価値を高めるため、コロナ終息後もオンライン授業を実施できるよう、2021年度より大学院学則を変更し、オンライン授業の継続的な展開を可能にした。

【白梅学園高等学校】

新型コロナウイルスの影響下で中学校訪問、学校説明会、個別相談会、体験入学等を工夫して行った。特に学校見学会においては、来校者1組に教員を1名を割り当てるなど、非常に手厚い（と評価していただけるよう）対応をした。当然、教員側の負担は相当なものになったが、結果的には定員280名に対して、287名の入学生を得ることができた。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 知名度向上の工夫

- ・全教員に地域を割りあて、定期的に塾を訪問し、職員会議で受験生情報を共有した。
- ・学校ホームページへ1日1本のトピックス更新に努めた。また、学校行事や課外活動をマスコミに情報を提供し、4本は全国ネットでテレビ放映された。
- ・小平市内全小学校の5、6年生全員に小学生英語教室の案内チラシを配布し、小平市内からの受験生の増加につながった。

(2) 学校説明会の工夫

生徒会役員を中心とした運営を企画し、そこでの生徒の姿に共感を得ることができた。また、学校説明会アンケートによると、多数の新入生が生徒に好感を持ったことを入学の動機としてい

た。

【白梅幼稚園】

(1) 2歳児クラスの拡充、内容の充実

2歳児にクラスについては、週2日のプログラムを導入したことで安定した参加を可能とした一方、曜日の固定により他園との併用を妨げた可能性がある。今後は、柔軟な利用を可能とするスケジュールを編制することが課題であり、達成は一部にとどまった。

(2) 募集対策の強化

募集対策については、パンフレットを全面的に更新し、入園説明会のチラシの配付や、ホームページの積極的活用を行った。対策の強化は達成されたが、園児の確保については今後も努力を要することから、総じて達成は部分的といえる。

5. 学園広報の推進

【学園・法人】

(1) 学園広報の見直し

各部門の活動状況を学内／学外に向けて積極的に発信するために、部門ごとに広報担当者を配置した。対外的な学園広報窓口として、法人事務局に学園広報担当課長（企画室長が兼務）を置いた。

2020年度は、清修の募集取り組み（SNS活用、メディア活用等）、募集パンフレットの刷新（清修、高校、幼稚園）を実施した。2021年度から積極的な情報発信の具体的体制、HPリニューアル、「地域と教育」の見直し等を行っていきたい。

2021年度から企画室を経営企画・広報室とし、白梅学園広報委員会の設置など、本格体制整備を行う。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 学园内連携の強化

今まで以上に附属白梅幼稚園との連携を強化するため、「学園の幼児教育のあり方検討会」を2020年8月より全6回開催した。「白梅幼稚園の保育を語る・知る・確認する」をテーマに日常の保育や行事についての課題を中心に活発に議論した。

(2) ホームページ・情報公開

コロナ禍の対応について、保護者の方も含めて広く大学の教育活動方針を伝えるため、ホームページを大いに活用した。またコロナ禍での学生の学びを4回にわたり紹介した。(①白梅での6ヵ月、②初・学内1年生の介護実習、③子ども学部3年生のゼミ活動、④ゼミナール研究発表会、子ども学会（卒論発表）等の活動)

【白梅学園高等学校】

当初事業計画にはなかったが大変重要な課題だととらえ、現在のHPのあり方については高校の部長会でも問題提起がなされている。HPは募集戦略上、最も重視すべきツールだが、本学園としてHPの効果的な見せ方の本格的な研究が他校と比べてどこまでなされているか、どれだけの労力や費用をかけているのかを、検証する必要がある。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

4. 学生・生徒・園児の確保 に記載。

【白梅幼稚園】

(1) 広報活動、ホームページ、情報公開の工夫

全面更新したパンフレットや70周年記念誌の発行、ホームページのこまめな更新により、幼稚園の保育や事業について、情報を適時に適切に発信した。幼稚園の広報は概ね達成された。

6. 国際交流の推進

【白梅学園大学・短期大学】

(1) ホームページ外国語対応（一部）

本学を広く理解いただくため、ホームページの一部について外国語対応を行った。

【白梅学園高等学校】

例年行っているターム留学（ニュージーランド）、海外語学研修（ニュージーランド）は新型コロナウイルス感染症のため、実施でなかった。また、それらの行事の受け入れ校と姉妹校関係を締結する予定だったが、同じく新型コロナウイルス感染症のため、話し合いが進みまなかった。それが収まり、相手校との交流が再開され次第、姉妹校締結に向けて進める。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 国際交流の企画

第2学年の国内英語研修で企画していた留学生との交流を国際理解教育に位置づけていたが、コロナ禍で、実施は2021年度へ延期となった。しかし事前学習として、東京在住のアルゼンチン、パキスタン、ベナン共和国からの留学生との交流を2回実施できた。プレゼンテーションを中心とした活動で、文化の違いによる興味や関心をもって、英語を使って「聞いてみたい、話してみたい」という気持ちで、意欲的にコミュニケーションに挑戦していた。

(2) 海外研修

第4年次カナダ研修旅行では、日本文化の発信の場を設定していたが、2021年度へ延期となった。

7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 地域連携の強化

子ども学研究所における活動助成を行ったものの、コロナ禍により、対面でのイベントの実施は困難であった。その中で、発達・教育相談室では、コロナ禍でのオンライン相談について条件を整えた。

東村山市との協定に向けては、コロナ禍により関係部署と実施内容の協議が中断してしまった。小平市、国立市とは継続した連携を行うことができた。

(2) リカレント教育の実施

2020年度に予定していた免許状更新講習や保育士キャリアアップ研修は、コロナにより、開催

中止となった。

2021年2月13日に、発達臨床心理セミナー「発達に偏りのある女の子の理解」をオンラインで実施した。133名の参加があり盛況であった。

【白梅学園高等学校】

計画にあった地域貢献活動は新型コロナウイルス感染症対策のため、行事そのものが中止されたり、本校独自の判断で実施を見送ったりして、実施できなかった。この問題が落ち着いたら再開する。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 小平市小学生対象の英語教室

2019年度は、本校1.5km圏内の5校、約700名の小学校5、6年生対象に参加案内を配布し、参加児童約100名を対面で実施したが、2020年度は、小平市内全小学校の5、6年生、3,000名を対象に案内を配布し、YouTubeによるオンラインで実施した。ネイティブ教員が教材を作成し、5月から2月までの10か月間に、55本の動画をWeb上で配信した。

(2) SDGsサークルの活動

2019年度に発足した「SDGsサークル」が、小平市の地域の団体が主催する玉川上水緑道の清掃活動に参加する計画だったが、コロナ禍により延期となった。清修フェスタ（文化祭）では参加者に気候変動や海洋汚染の実態をプレゼンテーションした。

【白梅幼稚園】

(1) 地域の方々と近隣大学との交流を推進

玉川上水に関する活動については、地域の方のご指導・ご協力を得て鷹の台駅通路で園児の描画を展示した。一連の活動については朝日新聞に掲載された。朝鮮大学との交流を得て、昆虫や生き物への関心を高めることができた。コロナ禍ではあったが、概ね達成することができた。

8. 卒業生との連携等の推進

【白梅学園大学・短期大学】

2020年度の同窓会総会は書面決議となったため、講演会講師の派遣はできなかった。一方で、同窓会を通じて、コロナ禍で苦境に立たされた学生のための自立支援奨学金への寄付を卒業生にお願いし、256件（計5,902,000円）の支援をいただいた。

【白梅学園高等学校】

進路指導行事の中で卒業生に協力してもらう行事に関しては、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら実施することができた。ただし、計画にあるような招聘の多様化は実施できず、例年通りの規模での開催となった。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 学校説明会の参加

毎回、卒業生から、清修で何を学び、現在の自分に清修での学びがどうつながっているかをテ

ーマに、学校説明会参加者に講演する企画を立てた。学校案内パンフレットや校内のキャリア教育のポスターに登場している卒業生であることから、説得力を増す効果があった。

(2) 同窓会組織の活動

卒業生の各年次の中から、9月にOG講演会、11月に職業インタビューなど進路指導に関わる行事への参加を依頼して、実施した。

【白梅幼稚園】

(1) 卒業生、保護者 OB との連携推進

2020年度はコロナ禍のため、実施することができなかった。

9. 働き方・仕事の仕方の見直し

【学園・法人】

(1) 大学・短期大学事務組織、法人事務組織の見直し

大学・短期大学部門について、教育・研究の質（価値）の一層の向上のため、より学生支援サービスを一体となって提供できるよう、また、教職一体となって、大学・短期大学改革等により迅速に対応できるよう、大学・短期大学事務組織の改編を検討した。2021年4月改編に向けて規程を整備し、2021年2月22日の理事会にて承認された。具体的な変更点は以下の通り。

- ・ 大学・短期大学事務組織を「大学・短大事務局」としてまとめ、事務部長をおく。事務部長が、各事務課に対して指示／調整を可能とする。
- ・ 大学・短大事務局の事務部長は、教学事項については学長の命を、その他の事項については事務局長の命を受け、担当事務を統括する。
- ・ 「企画調整室」の分掌を見直し、「教学企画課」と「教学IR室」に分け、その役割を明確化する。

法人部門については、より専門性を高め機能的に業務を遂行できるように事務局組織の改編を検討した。2021年4月改編に向けて規程を整備し、2021年2月22日の理事会にて承認された。具体的な変更点は以下である。

- ・ 専門性をより深める観点から総務課を「施設管理課」と「人事労務課」に分割し、役割／機能ごとの組織化を行う。
- ・ 課の主な役割を組織名称として表し、内外の方からより理解されるようにするため、法人画室を「経営企画・広報室」と改称する。
- ・ 学生等健康管理と教職員健康管理につき、組織的に明確化し再整理するため、人事労務課の下に、「教職員健康管理室」設置する。

これらにより能力向上発揮しやすい機構となり、プロの事務職員として、学生生徒・教職員により一層信頼されるよう、実質を高めることを目指す。

(2) 働き方・仕事の具体的見直し

業務効率化の参考として、津田塾大学の業務ペーパーレス化事例を視察した。「学生等へのサービスを向上させる」観点から業務内容を改めて確認し、各部署の重要業務を整理した。

2021年度は前述の「大学／短大事務組織、法人事務組織の見直し」により、以下の点について

取り組む。

①大学・短期大学が教育環境の急速な変化の中、教育の質向上・研究進展をよりの確に対応できるよう、事務部長をトップに、各課間の連携を素早く指示し成果を上げていくことを目指す。

②業務の優先順位を見直し、重要性の低い業務は、仕事のやり方を見直す。

③各課単位の事業計画を作成、逆算したスケジュールのもとPDCAに取り組む

(3)裁量労働制・変形労働時間制の導入

裁量労働制・変形労働時間制の導入の如何についても教職員と協議・検討は、コロナ禍で大学サイドとの検討は実施できなかった。2021年度検討を行う。

(4)人材育成体系の策定プロジェクトチーム

学園の持続的存続・発展のため、職員一人一人の能力が最大限発揮されるように、人材育成体系を策定し実運用へつなげる事を目的とするプロジェクトチームを発足した。2020年度は職員全体研修・管理職研修等を実施した。職員の研修制度について2021年度からの試行初年度に向けて、全体像の策定、次年度事業の検討と予算化を行った。

【白梅学園大学・短期大学】

事務組織を機動的な業務配置にすることで組織力を強めるため、大学・短大事務局を設置した。そのうえで、学長補佐機能を強化し、大学・短大の政策課題に迅速に適應できるようにするため、事務部長の配置と教学IR室の設置をした。また、学生の視点に一層立った学生サービスを行うため、一部の事務組織の大ぐくり化を行った。

【白梅学園高等学校】

現在13名の部活動指導員を配置し、2021年度に向けては1名増員を予定している。単純にとらえれば、この部活動指導員は増えれば増えるほど、教員の負担が減るはずだが、実際には部活動指導員の採用でさらに部活動が活発になり、教員の負担が期待するほど減っていない現状もある。

誰も仕事量が減ることは喜ばしいことだと考えるが、それと引き換えに教育の質を落とすことは教員としては容認できない。また、「4. 学生・生徒・園児の確保」で記載した通り、この時代に女子校で生き残っていくためには、説明会等では他の学校では行わないことも、効果があると判断されればできるだけ取り入れていく必要がある。

またICT導入による授業改革の中で、従来の黒板型の授業は成立せず、双方向型授業やアクティブラーニングに授業内容が移行し、今までよりもかなり多くの授業準備が必要となった。

さらに最近では家庭に大きな問題を抱えた生徒が増えており、生徒への指導を保護者に任せることが難しく、本来の学校教育の範囲を超えた指導を余儀なくされるケースが相次いでいる。そのような状況下でどのように教員としての仕事内容を整理すればよいのかは、根本的な解決がすぐには見つからない現状がある。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 専任教員・常勤講師の同一労働の課題

教科ごとに複数の専任教員を配置し、専任教員の業務と責任を明確にして、校務分掌を組織したものの、教員個々の能力に頼るところが大きく、常勤講師に相応以上の負担を強いることになった。

(2) 教員の代休日の取得

学校説明会等の日曜日勤務に全教員が参加して実施するために、代休日を長期休業期間に設定せざるを得ない実態があった。

【白梅幼稚園】

(1) 会議の効率化、教員間の仕事の見直しを園全体で取り組む

会議の効率化への取り組みは進み、残業時間の削減については、ほとんどの教員において改善された。概ね達成した。

10. 建学の精神の高揚

【学園・法人】

2020年度は新型コロナウイルス対策を優先し、本件については80周年記念事業の一環として、2021年度内に体制を整えてスタートすることとした。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 学園創立80周年記念に向けた大学・短大の歴史の再考

コロナ禍のため、学園創立80周年記念に向けての事業について、現時点で具体的な講演会等の開催を予定できていない。

【白梅学園高等学校】

教育3ポリシーを2019年度中に策定したが、それに基づいた教育活動を展開するためには、教育課程や学校行事、特別活動の計画に、それらが盛り込まれる必要がある。現在教育課程の見直しに入っており、それに従って学校行事や特別活動の中期計画を立てていく予定である。2020年度は、この3ポリシーの策定によって教育内容の大きな変更はない。

【白梅幼稚園】

(1) 幼稚園 70 周年記念

幼稚園開園 70 周年にあたり、白梅幼稚園の沿革・歴史と成果を取りまとめた 70 周年記念誌を刊行し、期待通りに達成した。

11. 令和充実5ヵ年年計画・80周年記念事業

【学園・法人】

2021年度早々にスタートできるよう、各事業の進め方について以下のように検討した。

- ・ 白梅学園創立80周年である2022年3月3日については、コロナ禍における式典の開催を避け、役員や関連団体幹部による創立者のお墓参りを企画している。
- ・ 記念式典は大学・短期大学新棟の着工式と同時に2025年度に行う。
- ・ 記念誌は2025年5月ごろの発行を目指す。
- ・ 募金は遅くとも2022年度には開始する。

【白梅学園大学・短期大学】

コロナ禍のため、学園創立80周年記念に向けての事業について、現時点で具体的な検討はできていない。

12. 大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画

【学園・法人】

(1) 大学・短期大学新棟の内容等具体化にむけ理事会のもと「建築委員会」設置

①新棟建築に向けて、毎月定期開催し、新棟の具体的な内容等につき検討を実施。2022年6月に理事会へ答申予定。

②大学・短期大学において2021年度から三密回避しつつ対面授業を行うため、学生間の距離を従来以上に離れた大教室の確保が必要となり、F44講義室とF45講義室の一体化工事を実施した。

(2) 施設の中長期整備計画の検討・具体化（常勤理事会）

2020年度は、新型コロナウイルス対策を優先し、2021年度に見送ることとした。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 大学短大新棟についての建築委員会発足・具体的検討

常勤理事会から付託を受けた「建築委員会」で、大学短大新棟について検討を行った。また、理事会より追加で教室整備についての諮問があり、答申を行った。

13. 財政再建計画

【学園・法人】

「学園の持続的存続・発展」のために、以下の取組を行う。

(1) 人件費・物件費見直し計画の着実な実行

財政再建策に基づき、新棟建築のための冬の賞与見直しを計画どおり実施した（3.0 カ月支給→2.5 カ月支給）。3月の入試繁忙手当は組合と調整しながら一部見直しを実施した。

(2) 学生生徒数の安定的確保に向けた収入面の取組・計画検討

コロナ禍にもかかわらず、大学・短期大学、高校は定員充足の見込みである。どの学校も、安定した学生・生徒・園児募集ができるよう構造的な取り組みを継続して実施していきたい。

(3) 重点方針・重点取組に基づいた新予算制度の着実な実行

2021年度予算編成の方針について、学生・生徒等数に基づく配分可能額を算出ののち、重点予算を予算化する流れで編成を実現した。物件費については実績に基づく予算編成を継続実行している。2021年度予算は、大学・短期大学新棟建築のための計画金額を確保した上で、現場の教育に極力対応できるよう工夫しながら、収支相償の予算編成を行った。

(4) 外部資金獲得の検討

大学・短期大学部門は補助金プロジェクトチームの発足により、組織的に補助金戦略を組む体制が整いつつある。高中幼部門においては、可能性のある補助金の獲得体制が整い進捗している。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 安定的な定員確保に向けた今後の募集・広報戦略の策定

入学定員確保と収容定員確保について、法人（経営・財務）側と教学側で、認識を一致させ、目

標数について確認をした。

【白梅学園高等学校】

各手当に関しては正当なものかどうか、精査を行った、その結果、大半の手当てに関しては、法定休日に所属長の命令で勤務をした場合や部活動の対外試合に生徒を引率した場合、また長期休業中に補習や部活動指導を行った場合であり、いわゆる休日中の労働の対価として手当を支払っている現状を考えると、不合理な手当の支払いとは言えない。

生徒募集に関する手当についてはやや優遇された面があることは否めない。ただし、実際に募集担当者が負う労働負担はかなりのものがあると言え、簡単に手当を軽減することは心理上の困難が生じることが予想される。今後はそれを視野に入れながらも、より適切な手当の支払いのあり方を模索していく。

ペーパーレスは教員会議等においてすでに実践されており、印刷費の軽減に役立っている。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 入学者の獲得と中途退学者の抑制

財政再建に最も必要な入学者の増加と生徒数の確保を、学校経営の最重点課題として取り組んだ。2020年度は11年ぶりに40名台の入学者45名を得ることができた。また、教育の充実を図り、中途退学者を5名に抑えることができた。(2018年度15名、2019年度12名)

(2) 学校運営経費のスリム化

会議のペーパーレス化は、教員が紙ベースよりもその利便性と有効性を実感し、定着してきた。また、歳出前年度比7パーセントカットの中で、緊急性を重視し優先順位を決めて予算を執行した。

また、特待制度の規定に基づき、2020年度入学者については奨学金の支給を1名のみとして厳格に執行した。

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底

【学園・法人】

(1) 全部門において意思決定の迅速化・透明性確保

2020年度は新型コロナウイルス対策を優先し、本件については2021年度に見送った。

2021年度に権限と責任に関する規程等の整備の現状と課題につき基本的な点につき整理（規程の有無・レベル、議事録の有無）する。

(2) ガバナンスコードの自主作成

日本私立大学協会や日本私立大学連盟が提示している「私立大学版 ガバナンスコード」について内容を確認し、検討した。2021年度以降3年以内に検討し、着手することとした。

(3) 内部統制システムの具体化定着（法令順守、情報管理等）

2020年度は新型コロナウイルス対策を優先し、内部監査を延期した。2021年度は監査内容を検討し、実施する予定である。

(4) PDCAの定着

10月の常勤理事会にて上期の振り返りを行った。振り返りを踏まえ、2021年度の事業計画を策

定した。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 教学各種委員会のあり方の検討

2020年度は、事務組織を改編する規程を先行して整えた。今後、事務職員の協力を得て、教職協同により解決を図り、教員の教育研究のための時間を創出できるよう、学長の下に各種委員会のスリム化等を検討した。

(2) IR機能の強化による質保証機能の構築

教学IRの年間計画を策定し、2020年度は、授業評価アンケート、学修行動調査、卒業時アンケートを実施した。教学マネジメント・IR委員会では、入学者選抜方法の妥当性、学修行動調査、卒業時アンケートの結果について共有し、結果概要を取りまとめた。さらに2021年度の教学IR実施計画を策定した。

また保育科において、卒業生アンケートを実施した。今後、分析・検証を行う。

【白梅学園高等学校】

部長会は学校の意思決定機関として機能している。特に新型コロナウイルス感染症対策で、学校としての判断を何度もしていかなければならない時期に、部長会が意思決定を行い、それを速やかに教職員や生徒たちに伝えることによって、その都度適切な対応をすることができた。現在は2022年度から始まる新カリキュラムに向けて部長会で議論している。学年会、部会ではおおむね積極的な議論がなされ、実のある会となっている。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

2020年度は、年度当初の教員面談で校長の経営方針を周知徹底し、年度末面談でその成果を確認するという、教員一人一人の学校運営参画のPDCAサイクルが定着してきた。

また、全教職員を対象として、年度末に学校運営上の20項目の課題について学校評価を実施し、2021年度の教育計画の立案に生かした。

【白梅幼稚園】

(1) 教員組織の機能と職員会議の機能を活かしながらの園運営

園庭や募集対策などのプロジェクト・チームを整備し実働を高めたことで、教職員は園運営への参画意識がもつことができた。概ね達成した。

15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）

【学園・法人】

施設の安全確保のための改修・更新を以下の通り行った。

大学・短期大学・E棟外壁塗装工事以外は全件予定通り実施した。大学・短期大学・E棟外壁塗装工事は、新型コロナウイルス対策で予算外支出が多岐にわたることから、2021年度以降に見送った。

(1) 消防用自家発電機の更新

3月に設置完了した。

(2) 中学・K棟天窓修理

経年の劣化で故障した天窓の修理を9月に実施した。

(3) 高校・グラウンドオールウェザー修繕

11月に既存トラックの表面を剥がし、既存基礎を利用し更新した。

(4) 中高・第2大体育屋根漏水修理

12月にバレーボールの柱の基礎コンクリートが破損していたことを発見し、その工事に合わせ、屋根の漏水工事も実施し完了し漏水が止まった。

(5) 大学・短期大学・E棟外壁塗装工事

新型コロナウイルス対策での予算外支出が多岐にわたり、2021年度以降に見送った。

(6) 幼稚園の一部補修 等

幼稚園からの要望をもとマンホールやフェンスの修理や樹木の大規模剪定などを12月に工事を完了させた。

(7) 耐震化対策（書棚等固定）

12月に中学高校と調整の上、当年度実施予定の箇所については完了した。年度末に当年度の予定箇所は終了させた。

【白梅学園高等学校】

体育館冷房化に向けての準備が始まった。今後、事務局との話し合いを通じて、早い時期に効果的に冷房化できるよう努める。

教員退勤早期化に向けては、その方法を探っているが、「9. 働き方・仕事の仕方の見直し」で記載した通り、すぐには答えが出ない問題だと考える。

16. 情報化教育/ICT

【学園・法人】

(1) 講義室等AV設備整備[大学・短期大学]

コロナ禍における教育の質の保障／向上、及び学生募集の観点から、2021年4月より授業に使えるよう、計画を前倒しして9教室のAV設備を刷新した。

(2) 証明書自動発行機整備[大学・短期大学]

学生の利便性向上や証紙関連業務の負荷軽減を目的として証明書自動発行機を導入する。(2019年度までに各種データ整備・事務室内発行システム整備まで完了。) 2021年4月より稼働開始するために、導入準備作業を開始したが、設計作業の遅れに加え、ランサムウェア被害によりサーバ等を再構築したことなどにより、2021年度後期稼働開始に変更した。

(3) ICカード整備[全学]

ICカードプリンタ設置、出力設計・環境構築を完了し、学生証や教職員証の発行環境を整備した。

(4) 電子黒板環境整備[清修]

東京都私学財団の補助金を活用し、整備を完了した。

(5) ネットワーク整備[幼稚園]

園舎内全域の無線LAN環境整備を完了した。

(6)セキュリティ対策[全学]

学園のPCセキュリティ向上のため、主にエンドポイントのセキュリティ統合管理を行うための準備を進めていたが、ランサムウェア被害により管理サーバの再構築が発生したため2021年度の稼働開始に変更した。

(7)学園の今後のオンライン教育のあり方並びに情報化教育投資の検討

- ①前期授業におけるオンライン授業（同時双方向、オンデマンド）振り返りを実施。（9月1日）
- ②「ICT整備構想案0.2版」（たたき台）を作成。常勤理事会にて報告。
- ③オンライン授業計画策定PTを立ち上げ、授業に関わるICT整備要件の整理、オンライン授業実施における課題整理、オンラインを活用した授業運営方針についての論議を行った。

(8)その他

清修中学校にて、文科省による GIGA スクール構想の前倒し予算措置に伴い、1人1台端末整備を急遽実施した。（私立学校情報機器整備費補助金へ申請。生徒への配布、運用開始は2021年4月を予定）。

【白梅学園大学・短期大学】

(1)ICT環境の整備計画策定（委員会等の設置）

「オンライン授業検討プロジェクトチーム」が立ち上がり、中長期的なオンライン授業の取り入れ方の検討をし、大学として学生に求めるパソコンおよびネットワーク環境について、ガイドラインを定めた。

【白梅学園高等学校】

1年生に全員にiPadを貸与し、効果的な活用方法を模索した。授業での活用は、授業の内容により十分であったりそうでなかったりする。今後はさらなる活用を目指す、同時にキーボード型の採用も検討する。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

1. 教育活動の推進 (3) ICT活用の推進 に記載。

【白梅幼稚園】

(1)ICT化の実現による事務の効率化

『サクラシステム』を導入し、保護者への諸連絡や教育計画等に十分に活用した。概ね達成した。

17. 新型コロナウイルス感染症に関する取組

【学園・法人】

(1)新型コロナウイルス感染症対策本部の設置

- ①原則毎月2回（常勤理事会と同日開催）対策会議を開催し、情報共有と対策検討を行った。
- ②各学校のPCR検査発生時に随時報告することとし、結果が出る前に対応を検討できる体制作りを行った。

(2) 学生等の支援

①オンライン授業受講のための受講環境整備について、全学生・生徒を対象に1人あたり3万円を支援金として給付した（総額6400万円）。

②自身で生活費や学費を賄っている学生など、コロナ禍で困窮している学生に対して、当面の生活費等支援として、「自立支援給付奨学金」を創設し、有志からの寄付1570万円を原資として、のべ133名に10万円を給付した。

(3) 講義室等整備[大学・短期大学]

2021年度から三密回避しつつ対面授業を行うため、学生間の距離を従来以上に離れた大教室の確保が必要となり、F44講義室とF45講義室の一体化工事を実施。併せてAV設備を刷新した。

(4) 職員の勤務体制

新型コロナウイルス対策として、三密回避、感染予防策として、時差出勤、交代勤務、在宅勤務を教職員に指示した。今後出校を伴わない勤務の有り方について見直しを進める。

(5) 消毒清掃

随時用務員によって大学・短期大学の教室などの消毒清掃を実施している。また、学生個人で必要に応じ消毒清掃が可能な様に、教室などに界面活性剤含有の清掃液と使い捨てのペーパータオルを配置した。2021年度以降も必要に応じて継続する。

(6) 遮蔽シート

要望のあった箇所には、感染拡大防止のために来訪者との間に遮蔽シートを設置した。2021年度は、大学短大の研究室が、ゼミ室としても使用されていることもあり、アクリル板を2021年4月に設置する。

(7) 加湿器

冬季は湿度が低下し、新型コロナウイルスを含め、流行性のウイルスの飛散量が増すのでウイルス感染防止のため、事務室と大学・短期大学の要望のあった研究室に加湿器を設置した。

【白梅学園大学・短期大学】

(1) 学生支援・交流

授業以外の場面では、大学への入構が制限される中、1年生に向けて、オンラインでの教員・先輩・卒業生との交流企画の実施。対面授業日に合わせた企画の実施など、複数回にわたり、各学科の創意工夫の下、交流を図った。また、学長と学生（学部生・短大生・院生）懇談会、学生課・学生相談室共同企画の「困り事相談会」をオンラインで実施した。

経済面での支援では、卒業生、後援会、教職員有志ほか関係各位からの寄付を原資とした「自立支援給付奨学金」を設け、必要とする学生を支援した。また12月から毎月、フードパントリーを実施した。

さらに、学生主体の企画では、白梅祭は学内でのYouTubeライブを計画し、動画を配信した。学生企画の地域子育て広場もオンラインで実施した。

【白梅学園高等学校】

(1) 予防対策の推進

マスクの常時着用、時差登校、短縮授業、教室内の座席を全て1.6m以上離す、教室を使用後は必ずアルコール消毒、部活動や自習などの放課後の活動の中止、授業においても感染リスクの高

い活動は中止、教室の常時換気、毎朝の検温とその記録の提出、昼食時は全員前を向き会話禁止、パーテーションの整備と必要に応じて随時使用、アルコールディスペンサーの配置などの対策を行った。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

養護教諭が共有部分の消毒個所を教職員に分担して、放課後に行う消毒作業が日々のルーティンとなった。

【白梅幼稚園】

(1) 予防のための消毒、手洗いの徹底

必要な対策などを明確化し、法人の共通見解のもと、園の感染症対策を実施し、保護者への理解を促すことができた。期待通りに達成した。

[V]財務の概要

1. 決算の概要

2020年度は新型コロナウイルス対策を最優先とする事業活動を行いました。また、財政再建策に基づき教職員の賞与 0.5 カ月見直し等を実行の上、大短新棟建設に備え減価償却特定資産へ 1 億 2,300 万円の繰入れを行いました。建築資金の累計は 3 億 4,000 万円となります。

当年度の資金収入は 36 億 1,500 万円、資金支出は 34 億 7,000 万円で単年度の収支差額は 1 億 4,500 万円の収入超過となりました。事業活動収支では収入合計 29 億 5,700 万円に対して支出合計が 28 億 2,300 万円で、基本金組入前当年度収支差額は 1 億 3,400 万円の収入超過となりました。その内訳は、教育活動収支差額が 1 億 2,200 万円の収入超過、教育活動外収支差額が 100 万円の収入超過、特別収支差額が 1,100 万円の収入超過となります。

コロナ禍の影響により大幅な予算外支出を実行した一方、コロナ禍による教育活動の休止・延期案件がありました。さらに、学園全体で経費縮減に努めた結果、当年度の収支は予算と比べ改善しました。

今期より、政策的に重視する項目について重点予算を組みました。概ね計画どおり実行、教育研究活動の充実および募集活動の活性化に取り組みました。

内容	金額	部門
学術研究の拠点の充実・発展と地域貢献（古田家寄贈図書関連）	110万円	大学短大
募集・新入試制度 対応のための広報費強化	300万円	大学短大
学生の学びへの支援体制の整備	200万円	大学短大
預り保育の充実	200万円	幼稚園
2歳児クラスの充実	90万円	幼稚園
大短新棟計画の具体化	800万円	法人
学生数確保等 収入増の取組み	660万円	法人
事務職員能力アップのための研修	80万円	法人
合計	2440万円	

2. 収支状況

(1) 事業活動収支

事業活動収支は、①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の 3 項目から構成されています。

①教育活動収支

教育活動収支の「収入の部」では、主な収入である学生生徒等納付金は、決算では 19 億 7,300 万円となり、入学者数の増加等に伴い予算比 2,400 万円増加しました。また、入学検定料等の手数料は 300 万円増加、寄付金は、大短学生の自立支援奨学金のための特別寄付金により 1,600 万円増加しました。経常費等補助金は、大短の授業料等減免費交付金 6,000 万円増加していますが、これは同額が奨学費として計上されています。雑収入は、退職金者の増加に伴い退職金交付金収入が 1,100 万円増加となりました。

教育活動収入計は、予算対比 1 億 600 万円増加し、29 億 3,600 万円となりました。

教育活動収支の「支出の部」では、「人件費」は教職員の欠員等により予算対比 2,000 万円減少し

19 億 2,300 万円となりました。「教育研究経費」は、6,300 万円の支出増でした。コロナ禍の影響により、奨学費 1 億 2,900 万円増加、通信費 600 万円増加、手数料 550 万円増加しました。奨学費の内訳は、全学生・生徒へのオンライン授業環境整備金 6,400 万円、自立支援奨学金 1,300 万円、高等教育の修学支援新制度にかかる授業料等減免による奨学費 6,100 万円となります。一方、予定事業の休止・延期等により、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、印刷製本費、謝礼費などの費用が 8,400 万円減少しました。「管理経費」は 2,500 万円の支出減となりました。教育活動支出計では 1,700 万円支出増となり、28 億 1,400 万円となりました。この結果、「教育活動収支差額」は、8,800 万円増加し、1 億 2,200 万円の収入超過となりました。

②教育活動外収支

「教育活動外収支」の「収入の部」「支出の部」とともに、大きな増減はなく、教育活動ならびに教育活動外収支を合わせた「経常収支差額」は 1 億 2,300 万円の収入超過となりました。

③特別収支

「特別収支」は、「収入の部」では、施設設備寄付金が 70 万円、施設設備補助金が 1,800 万円、「支出の部」ではコンピューターのリプレイス等及び経年備品の計画的処分により資産の除却が 800 万円計上されました。経年備品の計画処分とは、過去 1996 年度～2004 年度を取得年度する固定資産・備品について、実在性が極めて乏しいと判断できる備品について、今期より 5 か年かけて計画的に除却処理をするものです。「特別収支差額」は予算比 1,000 万円増加し、1,100 万円の収入超過となりました。経常収支差額に特別収支差額を合わせた「基本金組入前当年度収支差額」は 9,800 万円増加し、1 億 3,400 万円の収入超過となりました。

「基本金」は、第 1 号基本金 6,700 万円、第 3 号基本金 100 万円、計 6,800 万円を組入れました。第 1 号基本金では、経年備品の計画処分により、実在性が極めて乏しい備品 7,800 万円の取崩しを行っています。

この結果、基本金組入後の「当年度収支差額」は、6,600 万円の収入超過となり、翌年度繰越収支差額は 45 億 5,300 万円の支出超過になりました。

(2)貸借対照表

①資産の部

貸借対照表の「資産の部」では、新規に完成した建物はなく、既存建物等の減価償却、ICT 等教育研究用機器の増加等により「有形固定資産」が対前年度末比 8,400 万円減少しました。「特定資産」では従来の退職給与引当特定資産等に加え、将来の建物建築に備え減価償却引当特定資産に 1 億 2,800 万円、奨学引当特定資産に 300 万円を引き当て、1 億 5,200 万円増加しました。「固定資産」としては 5,600 万円増加 54 億 2,800 万円となりました。「流動資産」は、立替金が 7,500 万円減少、現金預金が 1 億 4,500 万円増加、全体で 7,100 万円増加し 10 億 4,700 万円となりました。

固定資産、流動資産をあわせた「資産の部合計」では、対前年度末より 1 億 2,700 万円増加し、64 億 7,600 万円となりました。

②負債の部

「負債の部」では、主に借入金の返済に伴い 700 万円減少し、14 億 3,400 万円となりました。

「基本金」残高は 95 億 9,500 万円で「繰越収支差額」（翌年度繰越支出超過額）は 45 億 5,300 万円となり、両者を合わせた「純資産の部合計」（自己資金）は 1 億 3,400 万円増加し 50 億 4,200 万円となりました。

(3)資金収支

資金収支においては、2020 年度を通じて行った諸活動に対応するすべての資金の動きを網羅しています。「収入の部」では、当年度の収入は 36 億 1,500 万円となりました。収入合計では、前年度繰越支払資金の 7 億 7,100 万円を加え、43 億 8,600 万円となりました。

「支出の部」では、当年度支出は 34 億 7,000 万円となり、翌年度繰越支払資金は 9 億 1,600 万円となりました。

活動区分別資金収支計算書では、資金収支計算書に記載される資金収入及び資金支出の決算額を①教育活動、②施設整備等の活動、③その他の活動に区分して記載しています。

①教育活動

教育活動による資金収支について、学納金・経常費補助金等の収入計は 29 億 3,600 万円、人件費・教育研究経費・管理経費の支出計は 25 億 8,900 万円となり、差引き 3 億 4,700 万円の収入超過となりました。ここから、前受金、未収入金等の調整勘定を差引きし教育活動資金収支差額は 3 億 4,200 万円の収入超過となりました。

②施設整備等活動

施設整備等活動による資金収支について、施設整備等活動資金収入計は 1,800 万円、同支出計は 2 億 4,800 万円となり、差引き 2 億 3,000 万円の支出超過となりました。ここから、未収入金等の調整勘定を差引きし、施設整備等活動資金収支差額は 2 億 2,700 万円の支出超過となりました。

尚、財政再建策に基づく賞与の見直し等による 1 億 2,800 万円は、大短新棟のための建築資金として、減価償却引当特定資産に繰り入れています。

③その他の活動

その他の活動による資金収支について、借入金収入・利息等の収入計は 6 億 6,200 万円、借入金返済・貸付金等の支出計は 6 億 3,100 万円となり、その他の活動資金収支差額は 3,000 万円の収入超過となりました。

上記より、当年度の支払金増加額は 1 億 4,500 万円となり、前年度繰越支払資金に加えると、翌年度繰越支払資金は 9 億 1,600 万円となりました。

(4) その他

①部門別 施設設備支出一覧（図書を除く）

部門	内容	金額
大短	大規模教室整備・AV 機器整備 (6,000 万円) 遠隔授業整備 (1,500 万円) 他	8,500 万円
高校	K 棟教室 ICT 整備 (450 万円) 駐車場アスファルト舗装 (170 万円) 他	950 万円
中学	生徒用 PC (1 人 1 台) 整備 (1,000 万円) K 棟教室 ICT 整備 (400 万円) 他	1,800 万円
合計		1 億 1,250 万円

②寄付内訳

寄付内容	金額	備考
施設設備、教育研究用の機器の整備・拡充	357 万円	
白梅学園未来基金	135 万円	累積額：6,885 万円
特別寄付 (白梅学園大学短期大学 後援会)	400 万円	白梅祭・卒業祝賀会 自立支援奨学金給付のため
特別寄付 (白梅学園高等学校 後援会)	300 万円	コロナ対策のため
特別寄付 (白梅学園高等学校 同窓会)	80 万円	白高トイレ・駐車場等 整備品購入のため
特別寄付 (白梅学園高等学校 父母と先生の会)	70 万円	グラウンド補修のため
特別寄付 (理事長 井原徹)	200 万円	自立支援奨学金給付のため
特別寄付 (匿名)	10 万円	清修の生徒募集 ICT 教育充実のため
特別寄付 (学内教職員) (外部理事・監事・評議員) (学園関係者) (大短同窓生) (その他 一般)	282 万円 122 万円 13 万円 610 万円 48 万円	自立支援奨学金給付 のため
特別寄付 (新型コロナウイルス感染症対策助成金)	120 万円	日本学生支援機構による助成金

3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1) 上記 1 のとおり、2020 年度決算は、事業活動の中心である教育活動収支差額は 1 億 2,200 万円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 1 億 3,400 万円の収入超過となりました。前年度決算と比較し、それぞれ 7,800 万円、7,400 万円改善しています。しかしながら、これはコロナ禍のために、当初予定していた実習活動、修学旅行等をはじめ種々の教育活動が実施できなかったという特殊要因と考えます。今後 10 年～20 年間の情報化教育や、老朽化に伴う大学・短大等の施設更新、教育環境の整備充実、研究の推進等を行い、「学園の中長期での持続的存続・発展」を図るには、より教育活動収支差額を改善し教育投資を行っていくことが必要であり、学生生徒の募集取り組みとともに徹底した財政の見直しを継続していくことが必要であると考えます。

(2)2020 年度は、教育面では、大学短大将来構想策定委員会、中高合同による中等教育検討委員会、大短と幼稚園による幼児教育懇談会を開始し、教育面での将来像につき検討を開始しました。また、コロナ禍により当初は緊急避難的にオンライン授業を行ってまいりましたが、アフターコロナ、ニューノーマルの時代を展望した場合、学校は対面授業、オンライン授業につきその特性を十分に踏まえてどのような教育・授業を展開するかも大きな課題と認識し、2021 年度秋口を目途に検討を進めております。募集面でも幼稚園に一部課題を残すものの、大短、高校が入学定員を確保し、長年大幅定員割れであった中学も、教職員の懸命の努力により入学者数を倍増しました。

(3)財政再建策の目的は、教育面の将来像の明確化と合わせて、学園が中長期的に持続的存続・発展を実現することと考えます。大学・短大新棟建築をはじめ、教育研究費（ICT・施設も含む）に人件費・物件費より資金シフトを行い、学生・生徒・園児の教育環境の充実を図り、その後、研究環境の充実を図っていく考えです。

人件費の見直しとして、2020 年度は冬の賞与 0.5 ヶ月の見直し等を実施しました。これを含めて 2020 年度より 3 年かけて賞与 1.5 ヶ月の見直しを行う考えです。全教職員にとっては痛みを伴うことではありますが、「今を耐えて未来を築く」という趣旨を、教職員組合ならびに全教職員とも十分な時間をかけて話し合い、理解・協力を求めていると考えております。

4. 財務状況の推移等

(1) 貸借対照表関係

① 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：百万円)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
固定資産	5,445	5,442	5,384	5,373	5,428
流動資産	905	903	966	976	1,047
資産の部合計	6,349	6,345	6,350	6,349	6,476
固定負債	970	867	798	756	763
流動負債	700	718	705	686	672
負債の部合計	1,669	1,585	1,503	1,442	1,434
基本金	8,874	9,098	9,309	9,527	9,595
繰越収支差額	△4,194	△4,338	△4,462	△4,619	△4,553
純資産の部合計	4,680	4,760	4,847	4,907	5,042
負債及び純資産の部合計	6,349	6,345	6,350	6,349	6,476

② 財務比率の経年比較

(単位：%)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
運用資産余裕比率	17.9	25.9	39.9	44.2	56.0
流動比率	129.3	125.8	136.9	142.4	156.0
総負債比率	26.3	25.0	23.7	22.7	22.1
前受金保有率	144.7	146.1	170.8	173.5	204.8
基本金比率	96.7	98.7	110.6	101.5	102.1
積立率	20.4	22.2	26.1	26.1	30.9

(2) 資金収支計算書関係

① 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
	学生生徒等納付金収入	2,207	2,079	2,020	2,002	1,973
	手数料収入	38	35	36	38	38
	寄付金収入	10	10	19	25	26
	補助金収入	779	822	771	789	864
	資産売却収入	11	2	0	1	50
	付随事業・収益事業収入	23	22	17	18	10
	受取利息・配当金収入	2	2	2	2	2
	雑収入	152	150	72	48	43
	借入金等収入	54	1	2	1	2
	前受金収入	423	427	448	444	447
	その他の収入	747	748	845	665	681
	資金収入調整勘定	△675	△558	△497	△522	△520
	(当年度資金収入) ①	(3,771)	(3,740)	(3,735)	(3,511)	(3,615)
	前年度繰越支払資金	571	612	623	766	771
	収入の部合計	4,342	4,352	4,358	4,277	4,386
	人件費支出	2,230	2,166	2,005	1,940	1,896
	教育研究経費支出	532	523	510	554	569
	管理経費支出	141	118	122	133	124
	借入金等利息支出	4	3	2	2	1
	借入金返済支出	77	81	81	81	52
	施設関係支出	93	24	10	35	7
	設備関係支出	41	102	22	158	114
	資産運用支出	27	134	128	44	202
	その他の支出	619	604	738	604	544
	資金支出調整勘定	△34	△26	△26	△45	△37
	(当年度資金支出) ②	(3,730)	(3,729)	(3,592)	(3,506)	(3,470)
	翌年度繰越支払資金	612	623	766	771	916
	支出の部合計	4,342	4,352	4,358	4,277	4,386
(当年度資金収支) ①-②		41	11	143	5	145

②活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	3,141	3,113	2,925	2,877	2,936
	教育活動資金支出計	2,902	2,807	2,636	2,627	2,589
	差引	239	306	289	250	347
	調整勘定等	△60	13	82	18	△5
	教育活動資金収支差額	179	319	371	268	342
施設設備等活動による資金収支	施設設備等活動資金収入計	63	4	10	42	18
	施設設備等活動資金支出計	133	231	137	212	248
	差引	△70	△227	△127	△170	△230
	調整勘定等	△41	48	△2	△6	3
	施設設備等活動資金収支差額	△111	△179	△129	△176	△227
小計（教育活動資金収支差額 +施設設備等活動資金収支差額）		68	140	242	92	114
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入計	653	556	715	598	662
	その他の活動資金支出計	680	685	814	685	631
	差引	△27	△129	△99	△87	30
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△27	△129	△99	△87	30
支払資金の増減額 （小計+その他の活動資金収支差額）		41	11	143	5	145
前年度繰越支払資金		571	612	623	766	771
翌年度繰越支払資金		612	623	766	771	916

③財務比率の経年比較

(単位：%)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育活動資金収支差額比率	5.7	10.2	12.7	9.3	11.6

(3) 事業活動収支計算書関係

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

			2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2, 207	2, 079	2, 020	2, 001	1, 973
		手数料	38	35	36	38	38
		寄付金	11	10	9	15	26
		経常費等補助金	716	818	771	757	847
		付随事業収入	23	22	17	18	10
		雑収入	148	150	72	48	43
		教育活動収入計	3, 143	3, 114	2, 925	2, 877	2, 936
	支出	人件費（退職給与引当金繰入額を除く）	2, 029	1, 994	1, 922	1, 888	1, 844
		退職給与引当金繰入額	182	149	92	61	79
		教育研究経費	721	708	702	742	759
		（うち減価償却費）	(189)	(185)	(192)	(188)	(190)
		管理経費	148	126	130	142	131
		（うち減価償却費）	(8)	(8)	(8)	(9)	(7)
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計		3, 080	2, 977	2, 846	2, 833	2, 814	
教育活動収支差額		63	137	79	44	122	

教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	2	2	2	2	2
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	2	2	2	2	2
	支出	借入金等利息	4	3	2	1	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	4	3	2	1	1
	教育活動外収支差額		△2	△1	0	1	1
	経常収支差額		61	136	79	45	123

特別収支	収入	資産売却差額	1	0	0	0	0
		施設設備寄付金	1	0	10	10	1
		現物寄付	0	0	2	2	1
		施設設備補助金	62	4	0	32	18
		過年度修正額	4	0	0	0	0
	特別収入計		68	4	12	44	19
	支出	資産処分差額	82	60	4	29	8
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計		82	60	4	29
	特別収支差額		△14	△56	8	15	11

基本金組入前当年度収支差額	47	80	87	60	134
基本金組入額合計	△74	△224	△211	△217	△68
当年度収支差額	△27	△144	△124	△157	66

前年度繰越収支差額	△4,167	△4,194	△4,338	△4,462	△4,619
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△4,194	△4,338	△4,462	△4,619	△4,553

(参考)

事業活動収支計	3,212	3,120	2,939	2,924	2,957
事業活動支出計	3,166	3,040	2,853	2,864	2,823

②財務比率の経年比較

(単位：%)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
人件費比率	70.3	68.8	68.8	67.7	65.5
教育研究経費比率	22.9	22.7	24.0	25.7	25.9
管理経費比率	4.7	4.0	4.4	4.9	4.5
事業活動収支差額比率	1.5	2.6	3.0	2.1	4.5
学生生徒等納付金比率	70.2	66.7	69.0	69.5	67.2
経常収支差額比率	2.0	4.4	2.7	1.6	4.2

(4) その他

①有価証券の状況

計算書類 p. 31 「8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1)有価証券の時価情報」に記載しております。

②借入金の状況

計算書類 p. 33 「借入金明細表」に記載しております。

③寄付金の状況

事業報告書 p. 31 「[IV] 財務の概要 2. 収支状況 (4) その他 ②寄付内訳」に記載しております。

④関連当事者との取引状況

計算書類 p. 31 「8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(3) 関連当事者との取引」に記載しております。

[VI] データ集

1. 役員の概要

(1) 理事の構成

定数 理事 14～15 人、監事 2 人(基準日：2021 年 3 月 31 日)

区分	氏 名	常勤／非常勤の別 (※ 非業務執行役員)	任期
理事長	井原 徹	常 勤	2019年1月20日 理事就任 2019年4月1日 理事長就任
理事 (大学・短期大学学長)	近藤 幹生	常 勤	2018年4月1日 理事就任
理事 (大学子ども学部学部長)	高田 文子	常 勤	2015年4月1日 理事就任
理事 (高等学校校長)	青山 彰	常 勤	2015年4月1日 理事就任
理事 (中学校校長)	山田 裕	常 勤	2019年4月1日 理事就任
理事 (法人事務局長)	大林 泉	常 勤	2015年4月1日 理事就任
理事 (高等学校副校長)	兼清 信生	常 勤(※)	2016年1月20日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	田村 敦彦	非常勤(※)	2011年11月2日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	秋田 中子	非常勤(※)	2015年5月26日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	増田 昭一	非常勤(※)	2016年1月20日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	長倉 澄	非常勤(※)	2007年11月13日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	高 為重	非常勤(※)	2016年1月20日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	西井 泰彦	非常勤(※)	2016年1月20日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	細江 卓朗	非常勤(※)	2016年1月20日 理事就任 (2019年1月20日 理事重任)
理事	牧野 光昭	非常勤(※)	2019年7月1日 理事就任
監事	池田 勝	非常勤(※)	2019年1月20日 監事就任
監事	金子 武弘	非常勤(※)	2012年3月13日 監事就任 (2019年1月20日 監事重任)

(2) 責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

①私立学校法に基づき、2020 年 1 月 20 日の理事会及び評議員会にて承認され、2020 年 4 月 1 日より施行した改正寄附行為第 46 条にて責任限定契約について記載し、対象となる非業務執行役員のうち本学園の職員でないもの（非常勤）10 名と 2020 年 8 月に責任限定契約（任期中有効、再任後も効力を有する）を締結した。

※学校法人白梅学園寄附行為より抜粋。

（責任限定契約）

第 46 条 理事（理事長、常務理事、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でないものに限る。）又は監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 60 万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

②私立学校法に基づき、下記の通り役員賠償責任保険に加入し、2020 年 3 月 16 日理事会にて報告した（2021 年度も契約を継続することについて、私立学校法施行規則の一部を改正する省令に基づき、2021 年 3 月 22 日の理事会にて承認した）。年間保険料の 5%については利益相反の観点から役員個人にて負担した。

加入保険：私大協役員賠償責任保険制度（D&O マネジメントパッケージ）

（経営責任総合保障特約条項・特定危険負担保特約条項・会社有価証券賠償責任等不担保特約条項・役員 の定義修正特約条項・追加保険料の払込猶予に関する特約条項付帯 会社役員賠償責任保険）

契約期間：2020 年 4 月 1 日～2021 年 4 月 1 日

補償対象(被保険者)：本学園及び本学園役員個人

年間保険料：26 万 6,000 円

保険期間中総支払限度額：10 億円

2. 評議員の概要

(1) 評議員の構成

定数 評議員 29～31 人(基準日：2021 年 3 月 31 日)

氏 名	区分	氏 名	区分
近藤 幹生	大学学長	増田 昭一	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
高田 文子	大学子ども学部学部長	坂本 勝恵	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
青山 彰	高等学校校長	遠藤 源太郎	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
山田 裕	中学校校長	町田 晴美	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
山形 美津子	幼稚園園長	大迫 和子	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
大林 泉	法人事務局長	山口 洋子	卒業生で25歳以上のものから各同窓会の推薦を経た者
倉澤 壽之	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	中島 百合子	法人に関係のある学識経験者
小林 美由紀	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	西口 栄一	法人に関係のある学識経験者
中山 正雄	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	長 明美	法人に関係のある学識経験者
瀧口 優	大学及び短期大学教授会の推薦する教員	榎田 光代	法人に関係のある学識経験者
兼清 信生	高等学校副校長	西島 宏和	法人に関係のある学識経験者
鈴木 邦夫	中学校副校長	稲田 百合	法人に関係のある学識経験者
中村 雅一	中学校及び高等学校教員の推薦する教員	市東 和子	法人に関係のある学識経験者
仙波 良太郎	その他の教職員の推薦する教職員	荻野 七重	法人に関係のある学識経験者
昼間 史	その他の教職員の推薦する教職員	秋田 中子	法人に関係のある学識経験者
		田村 敦彦	法人に関係のある学識経験者

3. 2020 年度理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会・評議員会

(2020 年度開催回数 理事会 9 回、評議員会 4 回)

理事会	評議員会
① 2020 年 5 月 25 日(月)	① 2020 年 5 月 25 日(月)
② 6 月 22 日(月)	② 11 月 30 日(月)
③ 7 月 27 日(月)	③ 2021 年 1 月 25 日(月)
④ 9 月 28 日(月)	④ 3 月 22 日(月)
⑤ 10 月 26 日(月)	
⑥ 11 月 30 日(月)	
⑦ 2021 年 1 月 25 日(月)	
⑧ 2 月 22 日(月)	
⑨ 3 月 22 日(月)	

(2) 常勤理事会

(2020 年度開催回数 常勤理事会 21 回)

常勤理事会			
①	2020 年	4 月 6 日(月)	⑫ 10 月 19 日(月)
②		4 月 20 日(月)	⑬ 11 月 9 日(月)
③		5 月 18 日(月)	⑭ 11 月 20 日(月)
④		6 月 8 日(月)	⑮ 12 月 7 日(月)
⑤		6 月 15 日(月)	⑯ 12 月 21 日(月)
⑥		7 月 6 日(月)	⑰ 2021 年 1 月 18 日(月)
⑦		7 月 20 日(月)	⑱ 2 月 1 日(月)
⑧		8 月 17 日(月)	⑲ 2 月 15 日(月)
⑨		9 月 7 日(月)	⑳ 3 月 8 日(月)
⑩		9 月 18 日(月)	㉑ 3 月 16 日(月)
⑪		10 月 5 日(月)	

4. 教職員の概要（専任教職員数）

職種	2019 年度 (2019 年 4 月 1 日)	2020 年度 (2020 年 4 月 1 日)	前年度差	備考
大学教員	41	42	1	大学院含む
短大教員	10	11	1	
高校教諭	54	54	0	
中学校教諭	9	10	1	
幼稚園教諭	12	11	-1	
事務職員	44	43	-1	
計	170	171	1	

5. 2020 年度進路状況

(1) 白梅学園大学

【大学子ども学部子ども学科】

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職						
			種別		希望者 B	決定者数 C うち非正規		内定・ 決定率 D=C/B	前年度同月 内定率
子ども 学科	142	就 職	公務	行政・一般職	0	0	0	0.0	100.0
				福祉職	12	11	0	91.7	100.0
				小計	12	11	0	91.7	100.0
			保・幼	公立保育園	29	29	0	100.0	100.0
				私立保育園	53	53	0	100.0	100.0
				公立幼稚園	0	0	0	0.0	100.0
				私立幼稚園	6	6	0	100.0	100.0
				私立認定こども園	2	2	0	100.0	100.0
				小計	90	90	0	100.0	100.0
			施設	公立施設	2	2	1	100.0	100.0
				私立施設	13	13	0	100.0	90.0
				小計	15	15	1	100.0	91.7
			小学	公立小学校	16	16	6	100.0	100.0
				公立特別支援学校	0	0	0	—	—
				小計	16	16	6	100.0	100.0
			企業	8	8	2	100.0	100.0	
			就職希望者 計		141	140	9	99.3	99.3
進 学		0	0		0.0	100.0			
希望なし		1							
未定・未提出		0							

【大学子ども学部発達臨床学科】

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職						
			種別		希望者 B	決定者数 C	うち非正規	内定・ 決定率 D=C/B	前年度同月 内定率
発達臨床 学科	51	就 職	公務	行政・一般職	1	1	0	100.0	100.0
				福祉職・心理職	0	0	0	0.0	100.0
				小計		1	1	0	100.0
			保・幼	公立保育園	5	5	0	100.0	100.0
				私立保育園	25	25	0	100.0	100.0
				公立幼稚園	0	0	0	0.0	0.0
				私立幼稚園	4	4	0	100.0	100.0
				私立認定こども園	0	0	0	0.0	100.0
				小計		34	34	0	100.0
			施設	公立施設	0	0	0	0.0	100.0
				私立施設	3	2	0	66.7	95.0
				小計		3	2	0	66.7
			小学	公立小学校	7	7	3	100.0	100.0
				公立特別支援学校	1	1	0	100.0	100.0
				小計		8	8	3	100.0
			企業	5	5	1	100.0	100.0	
			就職希望者 計		51	50	4	98.0	98.6
			進 学		0			0.0	100.0
			希望なし		0				
			未定・未提出		0				

【大学子ども学部家族・地域支援学科】

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	就 職						
			種別		希望者 B	決定者数 C		内定・ 決定率 D=C/B	前年度同月 内定率
家族・ 地域支援 学科	39	就 職	公務	行政・一般職	0	0	0	0.0	100.0
				福祉職	2	2	0	100.0	100.0
				小計	2	2	0	100.0	100.0
			保	公立保育園	0	0	0	0.0	100.0
				私立保育園	2	2	0	100.0	100.0
				小計	2	2	0	100.0	100.0
			施設	公立施設	1	1	0	100.0	100.0
				私立施設	26	26	2	100.0	88.5
				小計	27	27	2	100.0	88.9
			小学 公立小学校	4	4	3	100.0	100.0	
			企業	3	3	0	100.0	100.0	
			就職希望者 計		38	38	3	100.0	92.9
			進 学		0			0.0	0.0
			希望なし		1				
			未定・未提出		0				

(2) 白梅学園短期大学

学科	卒業 予定者 数 A	希望 進路	種別	希望者 B	決定者数 C		内定・ 決定率 D=C/B	前年度同月 内定率
						うち非正規		
保育科	92	就 職	公務（行政・一般職）	1	1	0	100.0	-
			保・幼					
			公立保育園	4	4	0	100.0	100.0
			私立保育園	55	53	0	96.4	100.0
			公立幼稚園	0	0	0	0.0	-
			私立幼稚園	11	10	0	90.9	100.0
			私立認定こども園	5	5	0	100.0	100.0
			小計	75	72	0	96.0	100.0
			施設					
			公立施設	1	1	1	100.0	100.0
			私立施設	2	2	1	100.0	75.0
			小計	3	3	2	100.0	80.0
			企業等	1	1	1	100.0	100.0
			就職希望者 計	80	77	3	96.3	98.7
			進 学	11	11		100.0	92.9
			希望なし	1				
			未定・未提出	0				

(3) 白梅学園高等学校

	指定校 推薦	公募制 推薦	総合型 選抜	一般 選抜	計	%
四年制大学	99	10	20	37	166	78.7%
他大学	61	9	18	37	123	(58.3%)
白梅学園大学	38	1	2	2	43	(20.4%)
子ども	33	1	1	2	37	(17.5%)
発達臨床	4				4	(1.9%)
家族・地域支援	1		1		2	(0.9%)
短期大学	15	1	8	1	25	11.8%
他短大	3	1	6	1	11	(5.2%)
白梅学園短期大学	12		2		14	(6.6%)
専門学校	4	2	3	6	15	7.1%
就職					1	0.5%
浪人					3	1.4%
家事従事・留学 等					1	0.5%

(4) 白梅学園清修中学校・中高一貫部

	指定校 推薦	公募推薦	自己推薦	一般受験	A0 入試	計	%
四年制大学	0	0	0	16	8	24	75.0
短期大学	0	0	0	0	0	0	0.0
専門学校	0	0	0	1	0	1	3.1
就職						0	0.0
浪人						6	18.8
留学等						1	3.1